

2009年12月 ネットワーク全労生

中小企業の今日的課題の克服 ～中小労働者に魅力ある労働運動～

全労生・副議長（U I ゼンセン同盟・副会長）徳田 孝蔵

全労生の中小企業対策部会では、中小企業における生産性運動の更なる推進をはかるべく、中小労働運動の活性化と中小企業に対する政策支援の強化に資する調査研究活動を展開している。本部会において2005年度から研究を重ねてきた「中小企業の格差是正」のテーマについては、報告書の補強を含め一定の取りまとめを行い、この上に立って現在「中小企業の今日的課題の克服」を新たな研究テーマとして掲げ研究に取り組んでいる。

本研究では、今般の厳しい経済情勢の中、中小企業が生き残るためには、中小企業の強みと弱みや存在意義を明らかにするなかから、今日的課題である①正常な労使関係の確立、②取引慣行の見直し、③金融・資金調達の方策、④産業・業種を超えた地域での連帯の見直しを克服することが必須である。この認識のもと、①真の生産性運動の推進、②中小企業労働者にとって魅力ある労働運動、③地域の活性化・社会との共生、④「自立」化の視点を中心にして検討を行なう予定である。

その研究活動の一環として、10月に開催された全労生中央討論集会では「格差是正に向けた正常な労使関係の構築と中小企業の今日的課題の克服」をテーマとした分科会討論を実施し、参加者より忌憚ないご意見を頂いた。組合役員の質的向上のための教育の工夫や産別による地方単組へのフォローの必要性など、多くの課題があげられた。これら一つひとつについて今後議論を深掘りする必要がある。また、分科会では中小企業の労使協議もテーマにあげられたが、組織化なしに、さまざまな方策を行うことはできない。まずは組織化を行う必要があると考える。

中小企業単組の活性化については、特効薬はなく、根気強い積み重ねが必要になる。また、中小企業の今日的課題は、そこで働く人々だけで解決できるものではない。産別・ナショナルセンターはもとより、広く市民と連携し、運動を展開していく必要がある。全労生としては、調査・研究活動を進めていくとともに、連携を強め、諸課題の克服に果敢に挑戦し、更なる生産性運動の充実・発展に努めていきたい。

最後になるが、中央討論集会分科会にてご協力をいただいた多くの関係者の皆さんに、心より感謝と御礼を申し上げる次第である。